



2023年度（2024年3月期）  
第3四半期決算

# 参考資料

2024年2月6日

エーザイ株式会社

お問い合わせ

PR部： TEL 03-3817-5120

IR部： TEL 03-3817-5122

<https://www.eisai.co.jp/>

## 【将来予想に関する事項と事業等のリスク】

本発表において提供される資料ならびに情報は、現在における予想、目標、評価、見通し、リスクを伴う想定などの不確実性に基づくものを含んでいます。従って、さまざまな要因の変化により、将来予想などが実際の結果と大きく乖離する可能性があります。リスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった日本および国際的な経済状況が含まれています。

当社グループの業績を大幅に変動させる、あるいは投資判断に重要な影響を及ぼす可能性のあるリスクや不確実性は、次のとおりです。ただし、これらは当社グループに係るすべてのリスクや不確実性を網羅したものではなく、現時点において予見できない、あるいは重要とみなされていない他の要因の影響を将来的に受ける可能性があります。

なお、これらは本発表日現在において判断したものであり、文中の将来に関する事項はその発生あるいは達成を保証するものではありません。

企業理念にもとづく経営に関するリスク、レカネマブと次世代AD治療剤の価値最大化に関するリスク、レンビマの価値最大化に関するリスク、パートナーシップモデルに関するリスク、デジタルトランスフォーメーションに関するリスク、新薬開発に関するリスク、副作用に関するリスク、製品品質および安定供給に関するリスク、知的財産に関するリスク、訴訟に関するリスク、データの信頼性に関するリスク、医療費抑制策に関するリスク、サクセッションに関するリスク、人財の確保と育成に関するリスク、情報セキュリティに関するリスク、新型コロナウイルス感染症に関するリスク、気候変動に関するリスク、のれんや無形資産の減損に関するリスク

## 目次

1. 連結損益計算書	1
2. セグメント情報	2
3. 報告セグメント別情報	3
4. 主力品売上収益	7
5. セグメント別売上収益見通し	9
6. 連結包括利益計算書	10
7. 連結キャッシュ・フロー計算書	11
8. 資本的支出及び減価償却費の状況	12
9. 連結財政状態計算書	12
10. 連結四半期業績の推移	14
11. 主要開発品	17

### 為替レート

		米国 (米ドル/円)	欧州 (ユーロ/円)	英国 (ポンド/円)	中国 (人民元/円)
2022年度 第3四半期	期中平均レート	136.51	140.58	163.90	19.87
	期末日レート	132.70	141.47	160.00	19.01
2022年度 通期	期中平均レート	135.46	140.96	163.15	19.74
	期末日レート	133.53	145.72	165.56	19.42
2023年度 第3四半期	期中平均レート	143.29	155.29	179.51	19.98
	期末日レート	141.83	157.12	180.68	19.93
2023年度	第4四半期予想レート	148.00	157.00	177.50	20.10

- 当社の連結財務諸表は国際会計基準（IFRS）にて開示しています。
- 当社グループは、セグメントを医薬品事業とその他事業に区分しており、医薬品事業を構成する日本、アメリカス（北米）、中国、EMEA（欧州、中東、アフリカ、ロシア、オセアニア）、アジア・ラテンアメリカ（韓国、台湾、インド、アセアン、中南米等）の5つの事業セグメントを報告セグメントとしています。  
なお、当連結会計年度における日本事業の再編に伴い、一般用医薬品等事業を日本医薬品事業へ統合しています。前連結会計年度のセグメント情報は、当該変更を反映しています。
- 当資料中の数字は、四捨五入で表示しています。

## 1. 連結損益計算書

(億円、%)

	2022年度				2023年度				2023年度	
	3Q累計	売上比	通期	売上比	3Q累計	売上比	前同比	増減額	通期予想	売上比
売上収益	5,462	100.0	7,444	100.0	5,513	100.0	100.9	51	7,410	100.0
売上原価	1,393	25.5	1,778	23.9	1,192	21.6	85.6	△ 200	1,545	20.9
売上総利益	4,069	74.5	5,666	76.1	4,320	78.4	106.2	251	5,865	79.1
販売費及び一般管理費	2,730	50.0	3,583	48.1	2,710	49.2	99.3	△ 19	3,740	50.5
販売費	1,445	26.4	1,890	25.4	1,416	25.7	98.0	△ 28	—	—
人件費	744	13.6	1,002	13.5	849	15.4	114.2	105	—	—
管理費他	541	9.9	691	9.3	445	8.1	82.2	△ 96	—	—
研究開発費	1,214	22.2	1,730	23.2	1,245	22.6	102.5	31	1,660	22.4
その他の収益	34	0.6	83	1.1	14	0.3	40.8	△ 20	45	0.6
その他の費用	21	0.4	35	0.5	4	0.1	17.1	△ 18	—	—
営業利益	138	2.5	400	5.4	375	6.8	271.6	237	510	6.9
金融収益	52	1.0	72	1.0	77	1.4	146.9	25	—	—
金融費用	15	0.3	23	0.3	15	0.3	104.8	1	—	—
税引前四半期（当期）利益	176	3.2	450	6.0	437	7.9	248.4	261	575	7.8
法人所得税	△233	△4.3	△118	△1.6	129	2.3	—	362	—	—
四半期（当期）利益	409	7.5	568	7.6	308	5.6	75.3	△ 101	430	5.8
四半期（当期）利益の帰属										
親会社所有者	391	7.2	554	7.4	291	5.3	74.4	△ 100	415	5.6
非支配持分	18	0.3	14	0.2	17	0.3	93.7	△ 1	—	—

四半期（当期）包括利益	714	13.1	969	13.0	665	12.1	93.1	△ 49
-------------	-----	------	-----	------	-----	------	------	------

EPS（円）	136.39	193.31	101.46	145.30
DPS（円）	—	160.0	—	160.0
ROE（%）	—	7.2	—	5.1
DOE（%）	—	5.9	—	5.6

\* 通期予想のその他の収益は、その他の費用を控除して表示しています。

\* EPS：基本的1株当たり四半期（当期）利益、DPS：1株当たり配当金、ROE：親会社所有者帰属持分当期利益率、DOE：親会社所有者帰属持分配当率

## &lt;コメント&gt;

■売上収益	<ul style="list-style-type: none"> <li>選択的エストロゲン受容体分解薬elacestrantに係る経済的収益受領権の譲渡に伴う一時金123億円の受領</li> <li>抗がん剤「レンビマ」と不眠症治療剤「デエビゴ」が引き続き伸長 (レンビマ：当期 2,232億円、前年同期 1,913億円、デエビゴ：当期 312億円、前年同期 220億円)</li> <li>ヒト型抗ヒトTNF<math>\alpha</math>モノクローナル抗体「ヒュミラ」の日本での契約満了、および抗てんかん剤「フィコンパ」の米国での権利譲渡による減少（ヒュミラ：当期 134億円、前年同期 375億円、フィコンパ：当期 197億円、前年同期 305億円）</li> </ul>
■販売費及び一般管理費	<ul style="list-style-type: none"> <li>米メルク社へ支払う「レンビマ」の折半利益を費用計上：当期 1,034億円、前年同期 914億円</li> <li>アルツハイマー病（AD）治療剤「レケンビ」の米国販売費が増加する一方、契約変更によりAD治療剤「Aduhelm」関連費用の負担なし（前年同期は、「Aduhelm」関連費用89億円を計上）</li> <li>バイオジェン社から受領した「レケンビ」関連費用の戻入：当期 △178億円、前年同期 △59億円</li> </ul>
■研究開発費	<ul style="list-style-type: none"> <li>パートナーシップモデルを活用した費用負担の抑制（パートナー負担額：当期 458億円、前年同期 537億円）</li> <li>前年同期は、「レンビマ」に関する米メルク社からの開発マイルストーン32億円を計上</li> <li>「Aduhelm」の契約変更により、当期の研究開発費の負担なし（前年同期は、研究開発費61億円を計上）</li> <li>米国連結子会社において、研究施設に係る減損損失22億円を計上</li> </ul>
■法人所得税	<ul style="list-style-type: none"> <li>前年同期は、米国連結子会社から払込資本の払戻しを受けた結果、法人所得税が減少</li> </ul>
■為替による影響額	<ul style="list-style-type: none"> <li>売上収益：+135.6億円、営業利益：+8.9億円</li> </ul>
■為替感応度 (1円の円安に対しての年間影響額)	<ul style="list-style-type: none"> <li>売上収益：米ドル +17.4億円、ユーロ +2.9億円、英ポンド +0.7億円、人民元 +56.1億円</li> <li>営業利益：米ドル △7.8億円、ユーロ +1.0億円、英ポンド △0.4億円、人民元 +31.6億円</li> </ul>

## 2. セグメント情報

## 1) 売上収益

(億円、%)

	2022年度		2023年度		
	3Q累計	通期	3Q累計	前同比	為替影響除く 前同比
医薬品事業（報告セグメント）計	5,319	6,844	5,281	99.3	97.0
日本 医薬品事業	1,881	2,389	1,720	91.4	91.4
アメリカス 医薬品事業	1,619	2,127	1,721	106.3	101.3
米国	1,591	2,090	1,683	105.8	100.7
中国 医薬品事業	915	1,108	864	94.3	93.7
EMEA 医薬品事業	525	722	562	106.9	103.3
アジア・ラテンアメリカ 医薬品事業	378	498	414	109.5	104.7
その他事業	143	600	232	162.0	153.6
連結売上収益	5,462	7,444	5,513	100.9	98.4

・外部顧客に対する売上収益を示しています。

## 2) セグメント利益

(億円、%)

	2022年度		2023年度		
	3Q累計	通期	3Q累計	前同比	為替影響除く 前同比
医薬品事業（報告セグメント）計	2,562	3,256	2,696	105.2	102.5
日本 医薬品事業	611	729	601	98.4	98.4
アメリカス 医薬品事業	989	1,334	1,118	113.1	108.1
中国 医薬品事業	491	556	467	95.0	94.3
EMEA 医薬品事業	295	416	314	106.2	104.4
アジア・ラテンアメリカ 医薬品事業	176	221	197	111.6	105.9
その他事業	71	485	156	220.3	204.3
研究開発費	△1,214	△1,730	△1,245	102.5	97.3
親会社の本社管理費等	△1,281	△1,610	△1,232	96.2	95.5
連結営業利益	138	400	375	271.6	265.1

・パートナーとの戦略的提携に伴う利益および費用の折半金額を親会社の本社管理費等に含めています。

## 3. 報告セグメント別情報

## 1) 日本 医薬品事業

(億円、%)

	2022年度		2023年度	
	3Q累計	通期	3Q累計	前同比
売上収益	1,881	2,389	1,720	91.4
医療用医薬品	1,694	2,154	1,542	91.0
一般用医薬品等	187	235	179	95.5
セグメント利益	611	729	601	98.4
<b>日本 医療用医薬品 主力品売上収益</b>				
不眠症治療剤 デエビゴ	181	242	266	146.8
ヒト型抗ヒトTNF $\alpha$ モノクローナル抗体 ヒュミラ	375	472	134	35.8
抗がん剤 レンビマ	106	137	122	115.4
ヤヌスキナーゼ阻害剤 ジセシカ	53	73	96	180.4
末梢性神経障害治療剤 メチコパール	82	103	74	91.1
抗がん剤 ハラヴェン	65	85	61	94.3
成分栄養剤 エレンタール*	55	70	57	102.5
慢性便秘症治療剤 グーフイス*	51	65	56	108.2
抗てんかん剤 フィコンバ	47	61	54	114.1
慢性便秘症治療剤 モピコール*	44	58	51	115.6
パーキンソン病治療剤 エクフィナ	36	46	45	123.7
プロトンポンプ阻害剤 パリエット*	45	55	33	73.2
アルツハイマー型、レビー小体型認知症治療剤 アリセプト	34	42	26	74.7
<b>日本 一般用医薬品等 主力品売上収益</b>				
ビタミンB2主剤「チョコラBBプラス」等 チョコラBBグループ	111	141	115	104.1

\* EAファーマの取り扱い製品です。

・「ヒュミラ」について、2023年6月にアッヴィ合同会社との開発および販売契約が満了しました。

・「パリエット」には、ヘリコバクター・ピロリ除菌用3剤組み合わせパック製剤「ラベキュアパック400/800」および「ラベファイナパック」の売上収益を含めています。



## 3) 中国 医薬品事業

(億円、%)

	2022年度		2023年度	
	3Q累計	通期	3Q累計	前同比
売上収益	915	1,108	864	94.3 <93.7>
セグメント利益	491	556	467	95.0 <94.3>
<b>中国 主力品売上収益</b>				
抗がん剤 レンビマ	274	322	211	77.0 <76.4>
めまい・平衡障害治療剤 メリスロン	81	99	102	125.5 <124.7>
末梢性神経障害治療剤 メチコパール	120	145	99	81.9 <81.4>
プロトンポンプ阻害剤 バリエット	71	84	63	88.6 <88.0>
肝臓疾患用剤・アレルギー用薬 強力ネオミノファーゲンシー／グリチロン錠	64	79	54	83.6 <83.2>
アルツハイマー型認知症治療剤 アリセプト	52	61	51	99.0 <98.3>
抗てんかん剤 Fycompa	19	24	28	149.9 <148.9>
抗がん剤 ハラヴェン	17	20	15	92.0 <91.2>

・前同比の<>内は為替の影響を除いた数値を示しています。

## 4) EMEA 医薬品事業 (欧州、中東、アフリカ、ロシア、オセアニア)

(億円、%)

	2022年度		2023年度	
	3Q累計	通期	3Q累計	前同比
売上収益	525	722	562	106.9 <103.3>
セグメント利益	295	416	314	106.2 <104.4>
<b>EMEA 主力品売上収益</b>				
抗がん剤 レンビマ／Kisplyx	220	309	277	125.7 <122.9>
抗てんかん剤 Fycompa	85	117	94	110.5 <104.4>
抗がん剤 ハラヴェン	102	136	91	88.6 <87.2>
抗てんかん剤 イノベロン	23	31	25	106.7 <99.8>

・前同比の<>内は為替の影響を除いた数値を示しています。

5) アジア・ラテンアメリカ 医薬品事業

(億円、%)

	2022年度		2023年度	
	3Q累計	通期	3Q累計	前同比
売上収益	378	498	414	109.5 <104.7>
セグメント利益	176	221	197	111.6 <105.9>
<b>アジア・ラテンアメリカ 主力品売上収益</b>				
アルツハイマー型、レビー小体型認知症治療剤 アリセプト	100	130	101	101.5 <97.3>
抗がん剤 レンビマ	81	111	100	123.8 <117.0>
プロトンポンプ阻害剤 バリエット	35	45	40	115.5 <110.8>
末梢性神経障害治療剤 メチコパール	30	39	33	107.1 <104.1>
抗がん剤 ハラヴェン	23	33	27	115.9 <109.0>
抗てんかん剤 Fycompa	13	17	15	111.5 <107.7>

- ・前同比の<>内は為替の影響を除いた数値を示しています。
- ・「アリセプト」のレビー小体型認知症の適応は日本、フィリピン、タイです。

## 4. 主力品売上収益

## 1) ニューロロジ領域製品

(億円、%)

	2022年度		2023年度	
	3Q累計	通期	3Q累計	前同比
ニューロロジ領域製品計	1,142	1,445	1,088	95.2 <93.5>
デエビゴ/Dayvigo (不眠症治療剤)	220	294	312	141.9 <141.1>
日本	181	242	266	146.8
アメリカス	36	48	38	106.5 <102.7>
メチコバル (末梢性神経障害治療剤)	246	308	220	89.4 <88.7>
日本	82	103	74	91.1
中国	120	145	99	81.9 <81.4>
アジア・ラテンアメリカ	30	39	33	107.1 <104.1>
フィコンパ/Fycompa (抗てんかん剤)	305	371	197	64.4 <62.5>
日本	47	61	54	114.1
中国	19	24	28	149.9 <148.9>
EMEA	85	117	94	110.5 <104.4>
アジア・ラテンアメリカ	13	17	15	111.5 <107.7>
アリセプト (アルツハイマー型、レビー小体型認知症治療剤)	190	244	192	100.9 <97.9>
日本	34	42	26	74.7
中国	52	61	51	99.0 <98.3>
アジア・ラテンアメリカ	100	130	101	101.5 <97.3>
イノベロン/Banzel (抗てんかん剤)	65	82	57	88.0 <83.6>
アメリカス	37	44	27	73.9 <70.6>
EMEA	23	31	25	106.7 <99.8>
レケンビ (アルツハイマー病治療剤)	—	0	14	— <—>
アメリカス	—	0	14	— <—>
その他	116	146	96	82.8 <82.2>

・前同比の<>内は為替の影響を除いた数値を示しています。

・「Fycompa」について、2023年1月に米国での権利をCatalyst Pharmaceuticals, Inc.に譲渡しました。

・「アリセプト」のレビー小体型認知症の適応は日本、フィリピン、タイです。

2) オンコロジー領域製品

(億円、%)

	2022年度		2023年度	
	3Q累計	通期	3Q累計	前同比
オンコロジー領域製品計	2,294	2,991	2,579	112.5 <108.3>
レンビマ/Kispalyx (抗がん剤)	1,913	2,496	2,232	116.7 <112.2>
日本	106	137	122	115.4
アメリカス	1,232	1,616	1,521	123.5 <117.7>
中国	274	322	211	77.0 <76.4>
EMEA	220	309	277	125.7 <122.9>
アジア・ラテンアメリカ	81	111	100	123.8 <117.0>
ハラヴェン (抗がん剤)	318	413	287	90.4 <88.1>
日本	65	85	61	94.3
アメリカス	110	139	93	84.2 <80.2>
中国	17	20	15	92.0 <91.2>
EMEA	102	136	91	88.6 <87.2>
アジア・ラテンアメリカ	23	33	27	115.9 <109.0>
その他	63	82	61	95.6 <92.5>

・前同比の< >内は為替の影響を除いた数値を示しています。

## 5. セグメント別売上収益見通し（2023年度）

（億円）

	2022年度		2023年度	
	3Q累計	通期	3Q累計	通期予想
<b>日本</b>	1,881	2,389	1,720	2,245
<b>医療用医薬品</b>	1,694	2,154	1,542	2,010
不眠症治療剤 デエビゴ	181	242	266	350
抗がん剤 レンビマ	106	137	122	175
ヤヌスキナーゼ阻害剤 ジセシカ	53	73	96	150
ヒト型抗ヒトTNF $\alpha$ モノクローナル抗体 ヒュミラ	375	472	134	135
末梢性神経障害治療剤 メチコパール	82	103	74	100
抗がん剤 ハラヴェン	65	85	61	85
慢性便秘症治療剤 ゲーフィス*	51	65	56	75
抗てんかん剤 フィコンパ	47	61	54	75
パーキンソン病治療剤 エクフィナ	36	46	45	70
慢性便秘症治療剤 モビコール*	44	58	51	70
成分栄養剤 エレンタール*	55	70	57	65
<b>一般用医薬品等</b>	187	235	179	235
ビタミンB2主剤「チョコラBBプラス」等 チョコラBBグループ	111	141	115	160
<b>アメリカス</b>	1,619	2,127	1,721	2,290
<b>米国</b>	1,591	2,090	1,683	2,235
<b>中国</b>	915	1,108	864	1,095
<b>EMEA</b>	525	722	562	740
<b>アジア・ラテンアメリカ</b>	378	498	414	530
<b>その他</b>	143	600	232	510
<b>連結売上収益</b>	<b>5,462</b>	<b>7,444</b>	<b>5,513</b>	<b>7,410</b>
<b>主要品目グローバル売上収益</b>				
レンビマ/Kisplyx	1,913	2,496	2,232	2,930
日本	106	137	122	175
アメリカス	1,232	1,616	1,521	1,985
中国	274	322	211	280
EMEA	220	309	277	370
アジア・ラテンアメリカ	81	111	100	120
デエビゴ/Dayvigo	220	294	312	425
日本	181	242	266	350
アメリカス	36	48	38	50
ハラヴェン	318	413	287	370
日本	65	85	61	85
アメリカス	110	139	93	110
中国	17	20	15	20
EMEA	102	136	91	120
アジア・ラテンアメリカ	23	33	27	35
フィコンパ/Fycompa	305	371	197	255
日本	47	61	54	75
中国	19	24	28	30
EMEA	85	117	94	125
アジア・ラテンアメリカ	13	17	15	20

\* EAファーマの取り扱い製品です。

・「ヒュミラ」について、2023年6月にアッヴィ合同会社との日本での開発および販売契約が満了しました。

・「Fycompa」について、2023年1月に米国での権利をCatalyst Pharmaceuticals, Inc.に譲渡しました。

## 6. 連結包括利益計算書

(億円、%)

	2022年度		2023年度		
	3Q累計	通期	3Q累計	前同比	増減額
四半期（当期）利益	409	568	308	75.3	△ 101
その他の包括利益					
損益に振り替えられることのない項目					
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産	51	55	18	34.6	△ 33
確定給付制度に係る再測定	—	11	—	—	—
小計	51	66	18	34.6	△ 33
損益にその後に振り替えられる可能性のある項目					
在外営業活動体の換算差額	255	334	341	133.8	86
キャッシュ・フロー・ヘッジ	△ 2	0	△ 2	119.7	△ 0
小計	253	335	339	133.9	86
その他の包括利益合計	305	401	357	117.2	52
四半期（当期）包括利益	714	969	665	93.1	△ 49
四半期（当期）包括利益の帰属					
親会社所有者	696	955	648	93.1	△ 48
非支配持分	18	14	17	95.1	△ 1

## 7. 連結キャッシュ・フロー計算書

(億円)

	2022年度 3Q累計	2023年度	
		3Q累計	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー			
税引前四半期利益	176	437	261
減価償却費及び償却費	298	294	△ 4
減損損失	3	24	21
運転資本の増減額（△は増加）	△ 548	△ 280	268
利息及び配当金の受取額	28	70	42
利息の支払額	△ 10	△ 11	△ 1
法人所得税の支払額	△ 181	△ 106	75
法人所得税の還付額	—	30	30
その他	△ 23	△ 79	△ 56
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 258	379	637
投資活動によるキャッシュ・フロー			
有形固定資産の取得による支出	△ 196	△ 110	86
無形資産の取得による支出	△ 83	△ 86	△ 3
有形固定資産・無形資産の売却による収入	4	4	△ 0
金融資産の取得による支出	△ 26	△ 53	△ 27
金融資産の売却・償還による収入	98	21	△ 78
小計<資本的支出等（キャッシュベース）>	△ 202	△ 224	△ 22
3カ月超預金の預入による支出	△ 0	△ 0	△ 0
3カ月超預金の払戻による収入	0	0	△ 0
その他	0	1	0
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 202	△ 223	△ 22
財務活動によるキャッシュ・フロー			
短期借入金の増減額（△は減少）	552	3	△ 549
長期借入れによる収入	—	498	498
長期借入金の返済による支出	△ 0	△ 100	△ 100
リース負債の返済による支出	△ 74	△ 71	3
配当金の支払額	△ 459	△ 459	△ 0
その他	△ 0	△ 5	△ 5
財務活動によるキャッシュ・フロー	19	△ 134	△ 153
現金及び現金同等物に係る換算差額	24	152	128
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△ 416	174	591
現金及び現金同等物の期首残高	3,096	2,674	△ 423
現金及び現金同等物の期末残高	2,680	2,848	168

フリー・キャッシュ・フロー	△ 460	155	615
---------------	-------	-----	-----

・フリー・キャッシュ・フロー＝（営業活動によるキャッシュ・フロー）－（資本的支出等（キャッシュベース））

## &lt;コメント&gt;

- 営業活動によるキャッシュ・フロー  
運転資本は、「レケンビ」についての棚卸資産の増加や未払金の減少などにより増加
- 投資活動によるキャッシュ・フロー  
研究設備および製造設備の増強を進めたことによる支出が発生
- 財務活動によるキャッシュ・フロー  
サステナビリティ・リンク・ローンの実行により長期借入金が増加  
配当金の支払いおよび1年内返済予定の長期借入金を返済

## 8. 資本的支出及び減価償却費の状況

(億円)

	2022年度		2023年度		
	3Q累計	通期	3Q累計	増減額	通期予想
資本的支出額（キャッシュベース）	279	346	195	△ 83	355
有形固定資産	196	226	110	△ 86	135
無形資産	83	120	86	3	220
減価償却費及び償却費	298	400	294	△ 4	400
有形固定資産	171	228	167	△ 4	230
無形資産	127	172	127	△ 0	170

## 9. 連結財政状態計算書

## &lt;資産の部&gt;

(億円、%)

	2022年度		2023年度			
	3月末	構成比	12月末	構成比	前期末比	増減額
資産						
非流動資産						
有形固定資産	1,666	13.2	1,599	12.2	96.0	△ 67
のれん	2,088	16.5	2,216	16.9	106.1	128
無形資産	892	7.1	862	6.6	96.6	△ 30
その他の金融資産	525	4.2	586	4.5	111.6	61
その他	214	1.7	215	1.6	100.5	1
繰延税金資産	1,026	8.1	1,024	7.8	99.8	△ 2
非流動資産合計	6,411	50.7	6,502	49.6	101.4	91
流動資産						
棚卸資産	1,404	11.1	1,632	12.4	116.3	228
営業債権及びその他の債権	1,873	14.8	1,862	14.2	99.4	△ 11
その他の金融資産	5	0.0	4	0.0	74.2	△ 1
その他	266	2.1	264	2.0	99.0	△ 3
現金及び現金同等物	2,674	21.2	2,848	21.7	106.5	174
流動資産合計	6,222	49.3	6,610	50.4	106.2	388
資産合計	12,634	100.0	13,112	100.0	103.8	479

## &lt;コメント&gt;

## ■資産の部

(のれん)

円安の進行に伴う増加

(棚卸資産)

「レケンビ」の生産を進めたことなどによる在庫の増加

<資本及び負債の部>

(億円、%)

	2022年度		2023年度			
	3月末	構成比	12月末	構成比	前期末比	増減額
資本						
親会社の所有者に帰属する持分						
資本金	450	3.6	450	3.4	100.0	—
資本剰余金	788	6.2	789	6.0	100.1	1
自己株式	△ 336	△ 2.7	△ 336	△ 2.6	99.9	0
利益剰余金	5,228	41.4	5,077	38.7	97.1	△ 150
その他の資本の構成要素	1,870	14.8	2,209	16.8	118.1	339
親会社の所有者に帰属する持分合計	8,000	63.3	8,189	62.5	102.4	189
非支配持分	226	1.8	238	1.8	105.3	12
資本合計	8,226	65.1	8,427	64.3	102.4	201
負債						
非流動負債						
借入金	849	6.7	1,348	10.3	158.7	499
その他の金融負債	370	2.9	373	2.8	101.0	4
引当金	13	0.1	13	0.1	103.3	0
その他	180	1.4	168	1.3	93.5	△ 12
繰延税金負債	7	0.1	5	0.0	73.6	△ 2
非流動負債合計	1,418	11.2	1,907	14.5	134.5	489
流動負債						
借入金	412	3.3	315	2.4	76.5	△ 97
営業債務及びその他の債務	868	6.9	561	4.3	64.6	△ 308
その他の金融負債	347	2.7	354	2.7	102.0	7
未払法人所得税	22	0.2	65	0.5	291.3	43
引当金	230	1.8	298	2.3	129.7	68
その他	1,110	8.8	1,186	9.0	106.8	75
流動負債合計	2,989	23.7	2,778	21.2	92.9	△ 212
負債合計	4,408	34.9	4,685	35.7	106.3	277
資本及び負債合計	12,634	100.0	13,112	100.0	103.8	479

<コメント>

<p>■資本の部 (その他の資本の構成要素)</p>	円安の進行に伴う在外営業活動体の換算差額の増加
<p>■負債の部 (借入金—非流動) (借入金—流動) (営業債務及びその他の債務)</p>	サステナビリティ・リンク・ローンの実行による借入金の増加 1年内返済予定の長期借入金の減少 主に未払金の減少

## 10. 連結四半期業績の推移

## 1) 損益計算書項目

(億円)

	2022年度				2023年度		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
売上収益	1,843	1,744	1,876	1,982	1,969	1,766	1,777
売上原価	474	451	467	386	439	364	389
売上総利益	1,369	1,292	1,408	1,596	1,530	1,402	1,388
販売費及び一般管理費	923	881	926	853	861	928	922
販売費	502	453	489	445	450	500	466
人件費	240	247	257	258	260	287	303
管理費他	181	181	179	149	151	141	153
研究開発費	385	430	399	516	411	416	417
その他の収益	25	6	4	49	6	1	6
その他の費用	11	9	2	14	4	5	△6
営業利益	74	△22	86	262	260	54	61
金融収益	27	10	15	20	28	26	23
金融費用	4	4	6	8	5	6	4
税引前四半期利益	97	△16	95	274	283	74	80
法人所得税	△182	△54	3	115	74	41	14
四半期利益	280	38	91	159	209	33	66
四半期利益の帰属							
親会社所有者	269	36	86	163	203	28	60
非支配持分	11	3	5	△4	6	5	7
四半期包括利益	797	224	△307	255	684	172	△192
EPS (円)	93.81	12.44	30.14	56.92	70.92	9.73	20.81

・EPS：基本的1株当たり四半期利益

## 2) キャッシュ・フロー計算書項目

(億円)

	2022年度				2023年度		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
営業活動によるキャッシュ・フロー	39	△228	△69	240	126	166	87
投資活動によるキャッシュ・フロー	△168	4	△38	△25	△116	△43	△64
財務活動によるキャッシュ・フロー	△252	△26	297	△264	△155	△55	76
現金及び現金同等物の期末残高	2,878	2,645	2,680	2,674	2,693	2,815	2,848
フリー・キャッシュ・フロー	△126	△227	△107	216	10	123	23

・フリー・キャッシュ・フロー＝（営業活動によるキャッシュ・フロー）－（資本的支出等（キャッシュベース））

## 3) 資本的支出及び減価償却費の状況

(億円)

	2022年度				2023年度		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
資本的支出額（キャッシュベース）	159	48	71	67	86	34	76
有形固定資産	116	26	54	30	70	24	15
無形資産	43	23	17	37	16	9	61
減価償却費及び償却費	98	99	102	101	98	98	99
有形固定資産	56	56	59	57	55	56	56
無形資産	42	42	43	45	42	42	43

## 4) 財政状態計算書項目

(億円)

	2022年度				2023年度		
	6月末	9月末	12月末	3月末	6月末	9月末	12月末
資産	12,729	12,613	12,511	12,634	13,051	13,340	13,112
資本	8,283	8,507	7,971	8,226	8,677	8,848	8,427
親会社の所有者に帰属する持分	8,045	8,281	7,740	8,000	8,449	8,617	8,189
負債	4,445	4,106	4,540	4,408	4,374	4,491	4,685
借入金	949	949	1,501	1,261	1,362	1,332	1,663
親会社所有者帰属持分比率（％）	63.2	65.7	61.9	63.3	64.7	64.6	62.5
負債比率（Net DER／倍）	△0.28	△0.24	△0.18	△0.21	△0.19	△0.20	△0.17

・負債比率（Net DER）＝（有利子負債（借入金）－現金及び現金同等物－3カ月超預金等－親会社保有投資有価証券）÷親会社の所有者に帰属する持分

## 5) 主力品売上収益の四半期推移

## (1) ニューロロジー領域製品

(億円)

	2022年度				2023年度		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
ニューロロジー領域製品計	371	374	397	303	367	342	378
デエビゴ/Dayvigo (不眠症治療剤)	65	71	84	74	94	100	118
日本	53	58	70	61	81	86	99
アメリカス	11	12	12	12	10	12	16
メチコバル (末梢性神経障害治療剤)	82	82	82	62	78	72	70
日本	27	26	28	22	25	24	25
中国	44	40	36	25	38	33	27
アジア・ラテンアメリカ	8	11	12	9	10	11	12
フィコンパ/Fycompa (抗てんかん剤)	99	102	104	66	81	55	61
日本	16	15	17	13	18	17	18
中国	6	7	6	5	26	1	2
EMEA	28	27	30	32	31	30	33
アジア・ラテンアメリカ	4	4	5	4	5	5	5
アリセプト (アルツハイマー型、レビー小体型認知症治療剤)	63	64	64	53	62	64	67
日本	12	11	11	8	9	8	8
中国	16	18	18	9	16	17	19
アジア・ラテンアメリカ	33	34	33	30	32	34	35
イノベロン/Banzel (抗てんかん剤)	18	20	27	17	20	18	20
アメリカス	9	11	17	8	10	8	9
EMEA	7	8	8	8	8	8	9
レケンビ (アルツハイマー病治療剤)	—	—	—	0	1	3	11
アメリカス	—	—	—	0	1	3	10
その他	45	34	37	30	33	31	33

・「Fycompa」について、2023年1月に米国での権利をCatalyst Pharmaceuticals, Inc.に譲渡しました。

・「アリセプト」のレビー小体型認知症の適応は日本、フィリピン、タイです。

## (2) オンコロジー領域製品

(億円)

	2022年度				2023年度		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
オンコロジー領域製品計	797	740	757	697	824	918	837
レンビマ/Kisplyx (抗がん剤)	663	618	631	583	708	806	718
日本	36	33	37	31	41	41	41
アメリカス	385	417	430	384	481	507	533
中国	139	69	67	48	69	115	27
EMEA	81	69	70	89	90	101	85
アジア・ラテンアメリカ	23	31	27	30	26	43	32
ハラヴェン (抗がん剤)	111	103	104	96	95	93	99
日本	22	21	22	20	21	20	20
アメリカス	41	36	33	29	29	31	33
中国	6	6	5	3	6	5	4
EMEA	35	33	34	34	30	28	33
アジア・ラテンアメリカ	8	7	9	10	8	10	9
その他	22	19	22	18	22	19	20

## 11. 主要開発品

### (1) 神経

開発品コード： <b>BAN2401</b> 一般名： <b>レカネマブ</b> 製品名： <b>レケンビ</b>				導入品 (BioArctic AB)	
薬効／作用機序：アルツハイマー病治療剤／抗 Aβ プロトフィブリル抗体				注射剤	
<p>【概要】 アミロイドβ (Aβ) プロトフィブリルに対する IgG1 抗体です。神経毒性を呈することが報告されている Aβ プロトフィブリルを除去することで、アルツハイマー病 (AD) の進行を抑制し、認知機能と日常生活機能の低下を遅らせます。2023 年 7 月、米国において、フェーズⅢ試験 Clarity AD に基づき、迅速承認からフル承認への変更に向けた申請について、米国食品医薬品局 (FDA) より AD の治療を適応として承認を取得しました。2023 年 9 月、日本において、AD による軽度認知障害および軽度の認知症の進行抑制の適応で製造販売承認を取得しました。2024 年 1 月、中国において、AD による軽度認知障害及び軽度の認知症の治療の適応で、承認を取得しました。早期 AD に係る適応で、欧州、カナダ、英国 (北アイルランドを除く)、オーストラリア、スイス、韓国、イスラエル、台湾、シンガポール、ブラジル、香港、ロシア、サウジアラビア、インドにおいて申請中です。イスラエルにおいては優先審査に、英国においては革新的な医薬品について上市までの時間を短縮することを目的とした Innovative Licensing and Access Pathway に指定されています。利便性向上をめざし皮下注射剤の開発も進めています。また、脳内 Aβ 除去後の維持療法に向けた新投与レジメンを確認するための試験を進めています。Alzheimer's Clinical Trials Consortium (ACTC) と共同でプレクリニカル (無症状期) AD を対象としたフェーズⅢ試験 AHEAD 3-45 も進行中です。Biogen Inc.と共同開発を行っています。</p>					
早期 AD	301 試験 (Clarity AD)	米国 日本 中国 欧州 アジア (韓国)	○ ○ ◎ ○ ○	フル承認 (2023 年 7 月) 承認 (2023 年 9 月) 承認 (2024 年 1 月) 申請 (2023 年 1 月受理) 申請 (2023 年 6 月)	
プレクリニカル AD	303 試験 (AHEAD 3-45)	日米欧		PⅢ	

開発品コード： <b>E2007</b> 一般名： <b>ペランパネル</b> 製品名： <b>フィコンパ/Fycompa</b>				自社品	
薬効／作用機序：抗てんかん剤／AMPA 受容体拮抗剤				経口剤	
<p>【概要】 グルタミン酸による AMPA 型グルタミン酸受容体の活性化を選択的に阻害します。部分てんかんの併用療法に対して日本、欧州、中国、アジアなど 75 カ国以上で承認を取得しています。また、日本、中国では、単剤療法の承認も取得しています。全般てんかんの強直間代発作の併用療法の適応についても、日本、欧州、アジアなど 70 カ国以上で承認を取得しています。欧州および中国では、経口懸濁液の承認を取得しています。日本では、細粒剤および注射剤の承認を取得しています。2023 年 1 月、米国における権利を譲渡しました。</p>					
注射剤 (剤形追加)	—	日本	◎	承認 (2024 年 1 月)	
全般てんかん (効能効果追加)	332 試験	中国		申請 (2023 年 3 月受理)	
レノックス・ガストー症候群 (効能効果追加)	338 試験	日米欧		PⅢ	

開発品コード： <b>E2006</b> 一般名： <b>レンボレキサント</b> 製品名： <b>デエビゴ/Dayvigo</b>				自社品	
薬効／作用機序：不眠症治療剤／オレキシン受容体拮抗剤				経口剤	
<p>【概要】 睡眠と覚醒の調整に関与するオレキシンの受容体に拮抗することで、覚醒状態を鎮め、速やかな入眠と睡眠維持をもたらすことが期待されます。不眠症に係る適応において、日本、米国、アジアなど 15 カ国以上で承認を取得しています。また、アルツハイマー病／認知症に伴う不規則睡眠覚醒リズム障害の適応で開発中です。</p>					
不眠症	311 試験	中国	◎	申請 (2024 年 1 月受理)	
アルツハイマー病／認知症に伴う不規則睡眠覚醒リズム障害 (効能効果追加)	202 試験	日米		PⅡ	

開発品コード： <b>E0302</b> 一般名： <b>メコバラミン</b>				自社品	
薬効／作用機序：筋萎縮性側索硬化症 (ALS) 治療剤				注射剤	
<p>【概要】 末梢性神経障害治療剤として広く使われているメコバラミンの承認用量の 100 倍 (1 回投与量として) の高用量製剤です。医師主導試験 JETALS の結果に基づき、日本において ALS に係る適応で新薬承認を申請しました。</p>					
◎ ALS	JETALS	日本		申請 (2024 年 1 月)	

開発品コード：E2023 一般名：lorcaserin			導入品 (Arena Pharmaceuticals)	
薬効／作用機序：ドラベ症候群治療剤／セロトニン 2C 受容体作動剤			経口剤	
<p>〔概要〕 選択的に脳内のセロトニン 2C 受容体を刺激することにより、GABA 作動性抑制性インターニューロンを活性化し、GABA を介したシナプス抑制を増加させることでドラベ症候群患者様の発作抑制を期待しています。肥満症治療剤適応の承認を取り下げましたが、ドラベ症候群の患者様団体から要請を受けたことから、米国にて延長アクセスプログラムを継続し、さらに、適応症取得をめざすフェーズⅢ試験が進行中です。FDA からドラベ症候群に関する希少疾病用医薬品（オーファンドラッグ）の指定を受けています。</p>				
ドラベ症候群	304 試験	米国		PⅢ

開発品コード：E2027			自社品	
薬効／作用機序：レビー小体型認知症・パーキンソン病認知症治療剤／PDE9 阻害剤			経口剤	
<p>〔概要〕 選択的なホスホジエステラーゼ（PDE）9 阻害作用により、細胞内のシグナル伝達に重要なサイクリック GMP（cGMP）の分解を抑制し、cGMP の脳内濃度を維持することにより、レビー小体型認知症ならびにパーキンソン病認知症に対する新たな治療薬になることを期待しています。</p>				
レビー小体型認知症・パーキンソン病認知症	203 試験	米国		PⅡ

開発品コード：E2814			共同創出品（ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン）	
薬効／作用機序：抗 MTBR タウ抗体			注射剤	
<p>〔概要〕 当社とユニバーシティ・カレッジ・ロンドンとの共同研究を通じて見出された抗微小管結合領域（Microtubule binding region: MTBR）タウ抗体です。タウ伝播種の脳内拡散を抑制することを期待しています。優性遺伝アルツハイマーネットワーク試験ユニット（DIANTU）が実施する臨床試験において、抗タウ薬として最初の評価対象薬に選定され、優性遺伝 AD を対象としたフェーズⅠb/Ⅱ試験とフェーズⅡ/Ⅲ試験 Tau NexGen が進行中です。</p>				
AD	Tau NexGen 試験 103 試験	日米欧 米欧		PⅡ/Ⅲ PⅠ/Ⅱ

開発品コード：E2511			自社品	
薬効／作用機序：シナプス再生剤			経口剤	
<p>〔概要〕 ダメージを受けたコリン作動性神経の回復およびシナプス再形成を促し、神経変性による脳萎縮を抑制することを期待しています。</p>				
AD	—	米国		PⅠ

開発品コード：E2025			自社品	
薬効／作用機序：シナプス再生剤			注射剤	
AD	—	米国		PⅠ

開発品コード：E2086			自社品	
薬効／作用機序：ナルコレプシー			経口剤	
ナルコレプシー	—	米国		PⅠ

開発品コード：EA4017			自社品	
薬効／作用機序：がん化学療法に伴う末梢神経障害（EA ファーマが開発）			経口剤	
がん化学療法に伴う末梢神経障害（EA ファーマが開発）	—	日本		PⅠ

## (2) がん

開発品コード：E7080 一般名：レンパチニブ 製品名：レンビマ				自社品
薬効／作用機序：抗がん剤／キナーゼ阻害剤				経口剤
<p>[概要] 血管内皮増殖因子受容体（VEGFR）である VEGFR1、VEGFR2、VEGFR3 や線維芽細胞増殖因子受容体（FGFR）の FGFR1、FGFR2、FGFR3、FGFR4 に加え、血小板由来増殖因子受容体（PDGFR）の PDGFR<math>\alpha</math>、KIT、RET などの腫瘍血管新生あるいは腫瘍悪性化に關与する受容体型チロシンキナーゼに対する選択的阻害活性を有する、経口投与可能な自社創製のマルチキナーゼ阻害剤です。単剤療法として、甲状腺がんに係る適応で、日本、米国、欧州、中国、アジアなど 80 カ国以上で承認を取得しています。肝細胞がん（ファーストライン）に係る適応で、日本、米国、欧州、中国、アジアなど 80 カ国以上で承認を取得しており、胸腺がんに係る適応で、日本において承認を取得しています。エベロリムスとの併用療法では、腎細胞がん（セカンドライン）に係る適応で、米国、欧州、アジアなど 65 カ国以上で承認を取得しています。ペムプロリズマブとの併用療法では、腎細胞がん（ファーストライン）に係る適応で、日本、米国、欧州、アジアなど 50 カ国以上で承認を取得しており、子宮内膜がん（全身療法後）に係る適応で日本、米国、欧州、アジアなど 50 カ国以上で承認（一部の条件付き承認の国を含む）を取得しています。なお、欧州における腎細胞がんに係る適応においては、Kisplyx の製品名で発売しています。Merck &amp; Co., Inc., Rahway, NJ, USA（米メルク社）と共同開発を行っています。</p>				
抗 PD-1 抗体ペムプロリズマブとの併用療法 米メルク社と共同開発（効能効果追加）				
肝細胞がん（肝動脈化学塞栓療法との併用療法）・ファーストライン	LEAP-012 試験	日米欧中		PⅢ
食道がん（化学療法との併用療法）・ファーストライン	LEAP-014 試験	日米欧中		PⅢ
胃がん（化学療法との併用療法）・ファーストライン	LEAP-015 試験	日米欧中		PⅢ
メラノーマ・セカンドライン	LEAP-004 試験	米欧		PⅡ
固形がん（胃がん、大腸がん、膵芽腫、胆道がん、膵臓がん）	LEAP-005 試験	米欧		PⅡ
頭頸部がん・セカンドライン	LEAP-009 試験	米欧		PⅡ
抗がん剤エベロリムスとの併用療法 米メルク社と共同開発（効能効果追加）				
腎細胞がん・ファーストライン	307 試験	日米欧		PⅢ
抗 PD-1 抗体ニボルマブとの併用療法 小野薬品と共同開発（効能効果追加）				
肝細胞がん	—	日本		PⅠ

- メラノーマ（ファーストライン）を対象とした米国、欧州、中国でフェーズⅢ段階にあった LEAP-003 試験について、独立データモニタリング委員会の推奨に従い、中止を決定したため、本表から削除しました。
- 大腸がん（サードライン）を対象とした米国、欧州でフェーズⅢ段階にあった LEAP-017 試験について、主要評価項目が未達となり、本表から削除しました。
- 頭頸部がん（ファーストライン）を対象とした日本、米国、欧州、中国でフェーズⅢ段階にあった LEAP-010 試験について、中止を決定したため、本表から削除しました。
- 非小細胞肺癌（ファーストライン）を対象とした日本、米国、欧州、中国でフェーズⅢ段階にあった LEAP-006 試験および非小細胞肺癌（セカンドライン）を対象とした日本、米国、欧州でフェーズⅢ段階にあった LEAP-008 試験について、主要評価項目が未達となり、本表から削除しました。
- ◎ 子宮内膜がん（ファーストライン）を対象とした日本、米国、欧州、中国でフェーズⅢ段階にあった LEAP-001 試験について、主要評価項目が未達となり、本表から削除しました。

開発品コード：E7389 一般名：エリ布林 製品名：ハラヴェン				自社品
薬効／作用機序：抗がん剤／微小管ダイナミクス阻害剤				注射剤
<p>[概要] クロイソカイメン由来のハリコンドリノBの合成類縁体で、微小管の伸長を阻害し細胞周期を停止させることで抗腫瘍活性を示します。日本、米国、欧州、中国、アジアなど 85 カ国以上で乳がんに係る適応で承認を取得しています。また、日本、米国、欧州、アジアなど 85 カ国以上で脂肪肉腫（日本では悪性軟部腫瘍）に係る適応で承認を取得しています。</p>				
単剤療法（剤形追加）				
リボソーム製剤	—	日欧		PⅠ
抗 PD-1 抗体ニボルマブとの併用療法 小野薬品と共同開発（剤形追加）				
リボソーム製剤	120 試験	日本		PⅠ/Ⅱ

開発品コード： <b>E7090</b> 一般名： <b>タスルグラチニブ</b>					自社品
薬効／作用機序：抗がん剤／FGFR1、FGFR2、FGFR3 阻害剤					経口剤
[概要] 経口投与可能な線維芽細胞増殖因子 (FGF) 受容体 (FGFR1、FGFR2、FGFR3) 選択的チロシンキナーゼ阻害剤です。FGFR2 融合遺伝子を有する切除不能な胆道がんを予定される効能または効果として、厚生労働省よりオーファンドラッグに指定されています。					
	FGFR2 融合遺伝子を有する胆道がん	201 試験	日本	◎	申請 (2023 年 12 月)
	乳がん	—	日本		P I

開発品コード： <b>MORAb-202</b> 一般名： <b>farletuzumab ecteribulin (FZEC)</b>					自社品
薬効／作用機序：抗がん剤／葉酸受容体 $\alpha$ をターゲットとする抗体薬物複合体					注射剤
[概要] 抗葉酸受容体 $\alpha$ 抗体と既に承認されている抗がん剤エリブリンを、リンカーを介して結合した抗体薬物複合体 (ADC) です。腫瘍部位にエリブリンを集中させ、葉酸受容体 $\alpha$ 陽性の子宮内膜がん、卵巣がん、肺がん、乳がんなどへの治療効果を期待しています。Bristol Myers Squibb と共同開発を行っています。					
	非小細胞肺癌	203 試験	米欧		P II
	卵巣がん、腹膜がん、卵管がん	205 試験	日米欧		P II
	固形がん	201 試験	米欧		P I / II

開発品コード： <b>BB-1701</b>					自社品
薬効／作用機序：抗がん剤／HER2 をターゲットとする抗体薬物複合体					注射剤
[概要] 抗 HER2 抗体と既に承認されている抗がん剤エリブリンを、リンカーを介して結合した抗体薬物複合体 (ADC) です。腫瘍部位にエリブリンを集中させ、HER2 陽性の乳がんなどへの治療効果を期待しています。Bliss Biopharmaceutical (Hangzhou) Co., Ltd. と戦略的提携に向けたオプション権を有する共同開発契約を締結しています。					
◎	乳がん	205 試験	米国		P II

開発品コード： <b>E7386</b>					共同創出品 (PRISM BioLab)
薬効／作用機序：抗がん剤／CBP / $\beta$ -catenin 相互作用阻害剤					経口剤
[概要] CREB-binding protein (CBP) と $\beta$ -catenin のタンパク質-タンパク質相互作用を阻害し、Wnt シグナルに依存した遺伝子発現を調節します。Wnt シグナルに依存した腫瘍増殖の抑制を期待しています。					
	固形がん (ペムプロリスマブとの併用療法)	201 試験	日米欧		P I / II
	固形がん	—	日米欧		P I
	固形がん (レンバチニブとの併用療法)	—	日米欧		P I

開発品コード： <b>H3B-6545</b>					自社品
薬効／作用機序：抗がん剤／ER $\alpha$ 阻害剤					経口剤
[概要] 経口投与可能な選択的エストロゲン受容体 (ER) $\alpha$ 共有結合型アンタゴニストであり、野生型および変異型 ER $\alpha$ をともに阻害します。ER 陽性 / HER2 陰性の乳がんに対する抗腫瘍効果を期待しています。					
	乳がん	101 試験	米欧		P I / II
	乳がん (CDK4/6 阻害剤 / パルボシクリブとの併用療法)	—	米欧		P I

開発品コード： <b>E7130</b>			共同創出品 (ハーバード大学)	注射剤
	固形がん	—	日本	P I

開発品コード：E7766	自社品	注射剤
固形がん	—	米欧
		PI

### (3) グローバルヘルス

開発品コード：E1224 一般名：ホスラブコナゾール	自社品
薬効／作用機序：抗真菌剤／エルゴステロール合成阻害剤	経口剤
<p>〔概要〕 独立非営利財団 Drugs for Neglected Diseases initiative (DNDi) と、世界で最も顧みられない病気のひとつであるマイセトーマ（菌腫）の内、特にアンメットメディカルニーズの高い真菌性菌腫（eumycetoma）に対する新規治療薬として共同開発を行っています。当社は非臨床試験および治験薬の提供などを担当しています。本剤のフェーズⅡb/Ⅲ試験は、スーダンにて DNDi およびスーダンのハルツーム大学菌腫研究センターにより行われました。現在、スーダン当局と承認申請に向けた協議を進めています。公益社団法人グローバルヘルス技術振興基金（GHIT Fund）の助成を受けています。</p>	

開発品コード：SJ733	共同開発品（ケンタッキー大学）
薬効／作用機序：抗マラリア剤／ATP4 阻害剤	経口剤
<p>〔概要〕 マラリア蔓延地域での治療に適した、即効性と安全性に優れ、持続的な治療と再発防止を可能とし、現在問題となっている既存の抗マラリア薬への耐性を克服する薬剤となることを期待しています。ケンタッキー大学と共同研究を行っており、当社は原薬の提供と製剤製造を担当しています。本剤のフェーズⅡ試験は、ペルーにてケンタッキー大学により行われています。GHIT Fund の助成を受けています。</p>	

開発品コード：AWZ1066S	共同開発品（リバプール熱帯医学校）
薬効／作用機序：抗フィラリア剤／抗ボルバキア作用	経口剤
<p>〔概要〕 リバプール熱帯医学校およびリバプール大学と、主なフィラリア症であるリンバ系フィラリア症および河川盲目症に有効な新規フィラリア駆虫薬創出に向けた共同研究を行っており、当社は原薬の提供と製剤製造を担当しています。本剤のフェーズⅠ試験は、英国にてリバプール熱帯医学校により行われています。GHIT Fund および英国 Medical Research Council の助成を受けています。</p>	

### (4) 消化器

開発品コード：AJG555 製品名：モビコール配合内用剤	導入品（Norgine）		
薬効／作用機序：慢性便秘症治療剤／ポリエチレングリコール製剤	経口剤		
<p>〔概要〕 ポリエチレングリコール製剤により腸管内の浸透圧制御を行うことで排便を促す経口便秘薬です。日本において、2 歳以上の小児および成人の慢性便秘症の治療を適応として承認を取得しています。EA ファーマが開発しています。</p>			
○ 慢性便秘症 2 歳未満適応（用法用量追加）	CT3 試験	日本	PIII

開発品コード：AJM347	自社品	経口剤
炎症性腸疾患（EA ファーマが開発）	—	欧州
		PI

開発品コード：EA1080	自社品	経口剤
炎症性腸疾患（EA ファーマが開発）	—	欧州
		PI

開発品コード：EA3571	自社品	経口剤
非アルコール性脂肪肝炎（EA ファーマが開発）	—	日本
		PI

(5) その他

開発品コード：FYU-981 一般名：ドチヌラド			導入品（富士薬品）	
薬効／作用機序：痛風・高尿酸血症治療剤／選択的 URAT1 阻害剤			経口剤	
<p>【概要】尿酸トランスポーターの 1 つである URAT1 を選択的に阻害し、腎臓での尿酸の再吸収を妨げ、尿中への尿酸排泄を促進します。その他のトランスポーターなどへの影響が少ないため、より少ない用量で血清尿酸値を低下させ、副作用や薬物相互作用のリスクが低いことが期待されています。日本においては、2020 年 1 月に富士薬品が製造販売承認を取得しています。2020 年 2 月に中国、2021 年 8 月に ASEAN5 カ国における開発・販売に関するライセンス契約を富士薬品と締結しました。</p>				
○	痛風・高尿酸血症	—	アジア (フィリピン)	申請（2023 年 9 月）
	痛風	301 試験	中国	◎ 申請（2024 年 1 月受理）

開発品コード：E6742			自社品	
薬効／作用機序：全身性エリテマトーデス治療剤／TLR7/8 阻害剤			経口剤	
<p>【概要】自然免疫系の受容体である Toll 様受容体（TLR）は、活性化により炎症反応や抗ウイルス応答を引き起こします。本剤は全身性エリテマトーデス（SLE）の発症機序に関連しているとされる TLR7/8 の経口選択的阻害剤です。国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）の医療研究開発革新基盤創成事業（CiCLE）に採択されています。</p>				
	全身性エリテマトーデス	101 試験	日本	P I / II

開発品コード：E8001			自社品	
	臓器移植に伴う拒絶反応	—	日本	P I